

独立行政法人造幣局 事業年度評価の項目別評価シート（６）

大項目： 2 . 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

中項目： (1) 貨幣の製造等

小項目： 高品質で純正画一な貨幣の確実な製造

中期目標	<p>造幣局は、製造量の減少にも対応し得る製造体制の合理化、効率化を図りつつ、財務大臣の定める貨幣製造計画を確実に達成するものとする。</p> <p>また、緊急の場合を含め当初予見しがたい製造数量の増減などによる製造計画の変更にも対応できる柔軟で機動的な製造体制を構築するものとする。</p> <p>さらに、効率的に高品質で純正画一な貨幣を製造すべく、製造工程における損率の改善に努めるとともに、最終の品質検査を徹底し、今後とも納品後の返品をゼロとするものとする。</p> <p>(注) 損率とは、製造工程中の投入量に対する仕損重量の比率をいう。</p>
中期計画	<p>イ．財務大臣の定める製造計画の達成</p> <p>作業の進捗管理、在庫管理等については、生産管理システム及び ERP システムの運用により、期日管理を含めた生産管理体制の一層の充実強化を行うとともに、設備管理について保守点検を厳格に行い、貨幣の製造量の減少にも対応しうる製造体制の合理化、効率化を図りつつ、貨幣を安定的かつ確実に製造し、今後とも財務大臣の定める製造計画を確実に達成します。</p> <p>ロ．柔軟で機動的な製造体制の構築</p> <p>緊急の場合を含め当初予見しがたい貨幣製造数量の増減や記念貨幣の追加発行などによる製造計画の変更にも対応できる柔軟で機動的な製造体制の構築に努めます。また、業務運営の一層の効率化の観点から、今後の運営状況を踏まえ、組織・規程の見直しについて継続的に検討を行います。</p> <p>そのため、貨幣部門においては技能研修を実施し、幅広い業務に関する知識や技能を習得した職員を養成します。</p> <p>ハ．純正画一な貨幣の製造</p> <p>品質マネジメントシステム ISO-9001 を活用し、品質目標を定める目標管理制度の導入や、品質マニュアルの策定により標準化を図ること等により品質管理体制を充実させ、引き続き純正画一な貨幣の製造を行い、今後とも、納品後の返品件数ゼロを維持します。</p> <p>ニ．損率改善</p> <p>不良品の発生等、製造工程上のトラブルが発生した場合には、原因の究明、対応策の検討、製造工程へのフィードバック等の一連の対応を迅速に実施します。製造工程における損率の改善を図るため、実績歩留を理論歩留に近づけます。損率改善の指標</p>

	<p>として 500 円ニッケル黄銅貨幣の仕損率を採用することとし、目標期間中の仕損率の平均が平成 13 年度の実績値を下回るよう努めます。</p> <p>(参考) 13 年度 500 円ニッケル黄銅貨幣仕損率 5.2%</p> <p>仕損率 = 1 - (実績歩留 ÷ 理論歩留)</p>
<p>(参考) 年度計画</p>	<p>イ. 財務大臣の定める製造計画の達成</p> <p>作業の進捗管理、在庫管理等については、生産管理システム及び ERP システムの運用で予定と実績の差異を確実に把握することにより、期日管理を含めた生産管理体制の一層の充実強化を図ります。また、設備管理については、法定点検だけでなく予防保全の観点からも製造設備の保守点検を定期的に行います。これらのことにより、製造体制の合理化、効率化を図りつつ、貨幣を安定的かつ確実に製造し、財務大臣の定める製造計画を確実に達成します。</p> <p>ロ. 柔軟で機動的な製造体制の構築</p> <p>緊急の場合を含め、当初予見しがたい貨幣製造数量の増減や記念貨幣の追加発行などによる製造計画の変更にも対応できる柔軟で機動的な製造体制の構築に努めます。平成 18 年度においても貨幣部門における技能研修を実施し、溶解工程から圧印検査工程までの幅広い業務に関する知識や技能を習得した職員の養成に努めます。</p> <p>また、業務運営の一層の効率化の観点から、今後の運営状況を踏まえ、組織・規程の見直しについて継続的に検討を行います。</p> <p>ハ. 純正画一な貨幣の製造</p> <p>品質マネジメントシステム ISO9001 を活用し、品質目標を定める目標管理制度や、品質マニュアルにより標準化を図ること等により品質管理体制を充実させ、引き続き純正画一な貨幣の製造を行い、納品後の返品件数ゼロを維持します。</p> <p>ニ. 損率改善</p> <p>不良品の発生等、製造工程上のトラブルが発生した場合には、原因の究明、対応策の検討、製造工程へのフィードバック等の一連の対応を迅速に実施します。これらの措置をとることにより、実績歩留を理論歩留に近づけ、製造工程における損率の改善を図ります。損率改善の指標として、溶解から圧印・検査工程までの全ての工程を造幣局内で行っている 500 円ニッケル黄銅貨幣の平成 18 年度の仕損率については、更にその改善のための取組を進め、中期計画の目標である平成 13 年度実績値 5.2%以下を確実に達成します。</p>

イ．財務大臣の定める製造計画の達成

生産管理システム及びERPシステムの運用による生産管理体制の充実強化の状況

1．生産管理システム及びERPシステムを活用し、製造予定及び実績等の評価により生産管理を徹底し、製造計画を確実に達成した。

貨幣製造計画の変更（平成18年6月、9月及び12月）が生じた際にも、生産管理システム及びERPシステムから得られる在庫管理、生産管理の各データを活用することにより、効率的な作業計画を迅速に策定し、対処することができた。

2．ERPシステムが持つ機能の一つである管理会計の機能を利用することにより、製造原価の計画値と実績値の差異を把握し分析を行った。

3．貨幣製造の各工程における作業実態に応じ、原価分析の精度を上げるために標準原価の見直しを行った。

設備の保守点検の状況

予防保全に重点を置いた日常点検、静点検、動点検のほか、平成17年度に引き続き、定期的（月1回）に、各課の係長、現場の作業責任者で行うフォロー会議を実施し、安定操業について意識の啓蒙を行った。

さらに、生産保全の向上を図るため、TPM活動（全員参加の生産保全）への取組みに努めた。

予防保全を強化した結果、独立行政法人移行後に最も故障の少なかった平成17年度と比べ、平成18年度は件数では前年度比25%減となった。また、生産に直接的に影響を与える停止時間についても、前年度比で23%減となった。これにより、設備稼働率を高い水準に維持できた。

〔参考〕

故障実績の推移

区 分		故障件数（件）	停止時間（時間）
平成	14年度	103	-
平成	15年度	33	282
平成	16年度	33	101
平成	17年度	20	87
平成	18年度	15	67
平成18年度	対14年度	件数・時間	88
		率（％）	15%
	対15年度	件数・時間	18
		率（％）	45%
	対16年度	件数・時間	18
		率（％）	45%
対17年度	件数・時間	5	
	率（％）	75%	

（注）平成14年度以前は故障件数のみ集計しており、停止時間は不明。

貨幣の安定的かつ確実な製造の状況

ERPシステムの活用による生産管理体制の強化及び予防保全に重点を置いたメンテナンス強化を通じた安定操業により、各工程とも計画製出量を達成し、財務大臣の

定める製造計画を達成した。また、品質面についても、品質マネジメントシステムに基づく管理体制により、貨幣を財務省に納品する際に行われる財務局の納入前検査に全て合格した。

財務大臣の定める製造計画の達成状況

生産管理システム及びERPシステムの運用による期日管理を含めた生産管理体制の充実強化とともに、定期的な保守点検による厳格な設備管理により、貨幣を安定的かつ確実に製造し、財務大臣の定めた平成18年度の製造計画を確実に達成した。

平成18年度財務大臣が定めた製造計画及び実績

(単位：千枚)

貨幣種別	製造計画 (当初)	製造計画 (18年6月変更)	製造計画 (18年9月変更)	製造計画 (18年12月変更)	実績
1000円記念貨		70	70	70	70
500円記念貨			6,600	6,600	6,600
500円通常貨	(265) 430,000	(265) 430,000	(265) 430,000	(250) 430,000	(250) 430,000
100円通常貨	(265) 270,000	(265) 270,000	(265) 270,000	(250) 190,000	(250) 190,000
50円通常貨	(265) 10,000	(265) 10,000	(265) 10,000	(250) 10,000	(250) 10,000
10円通常貨	(265) 410,000	(265) 410,000	(265) 410,000	(250) 400,000	(250) 400,000
5円通常貨	(265) 10,000	(265) 10,000	(265) 10,000	(250) 10,000	(250) 10,000
1円通常貨	(265) 100,000	(265) 100,000	(265) 100,000	(250) 160,000	(250) 160,000
計	1,230,000	1,230,070	1,236,670	1,206,670	1,206,670

(注)上段()内書はブルー貨

ロ．柔軟で機動的な製造体制の構築

製造計画の変更にも対応できる柔軟で機動的な製造体制の構築状況

- 平成18年度の貨幣製造計画は、当初(平成18年4月3日)の12億3,000万枚に対して3回の変更が行われた。
- 平成18年6月の計画変更は、財務大臣が国際連合加盟50周年記念千円銀貨幣7万枚の発行を決定したことを受けて行われたものであるが、財務省と緊密に情報交換していたこともあり、同記念貨幣の製造計画を確実に達成した。
- 平成18年9月の計画変更は、財務大臣が南極地域観測50周年記念500円ニッケル黄銅貨幣の発行枚数を660万枚に決定したことを受けて行われたものであるが、同記念貨幣の製造計画を確実に達成した。
- 平成18年12月の計画変更は、市中における貨幣の流通状況を踏まえて当初に比べ100円白銅貨幣を8,000万枚、10円青銅貨幣を1,000万枚それぞれ減少し、1円アルミニウム貨幣を6,000万枚増加するという内容のものであったが、財務省と緊密に情報交換し、機動的に対応した結果、支障なく製造計画を確実に達成した。

組織・規程の見直しについての検討状況

柔軟で機動的な製造体制の構築を図りつつ、高品質な貨幣の製造を確保する観点から、貨幣の各種検査で使用する監視測定機器の管理体制について、平成18年7月「作業の基準に関する規程」の中に規定化した。

貨幣部門における技能研修の実施状況

貨幣製造計画の変更に的確に対応できる柔軟で機動的な製造体制を構築するためには、溶解工程から圧印検査工程までの幅広い業務に関する知識や技能を修得している職員の養成が不可欠となる。平成18年度において、10人の職員を対象に9ヶ月間、貨幣部門総合技能研修を実施した（平成18年7月から平成19年2月まで。本局5人、東京支局1人、広島支局4人）。

また、作業員個々のスキルアップを図るための外部研修にも積極的に参加させた。

八．純正画一な貨幣の製造

ISO-9001の活用による品質管理体制の充実状況

- ・ 品質マネジメントシステムISO9001に基づき、新たに製造する記念貨幣に対応するための作業標準細目等を定めた。
- ・ 品質マネジメントシステムISO9001に基づき定められている通常貨幣の製造に対応する作業標準細目について充実を図り、担当者の会議において実施状況を確認した。
- ・ 品質マネジメントシステムISO9001に基づく内部監査を平成18年7月及び平成19年1月に、マネジメントレビューを平成18年9月及び平成19年2月に実施し、貨幣製造事業を含めた品質管理体制の検証を行った結果、継続的改善が行われていることを確認した。

純正画一な貨幣の製造状況

品質マネジメントシステムISO9001に基づく品質管理体制により品質の維持管理を図ったほか、外注材料についても業者への適切な指導を行うことにより、品質管理の徹底に努めた結果、局内試験規程に基づく、検査、並びに財務省へ貨幣を納入する際に行われる財務局による検査に全ての貨幣が合格し、予定どおり納品した。

なお、平成18年11月に実施された第135次製造貨幣大試験において、執行官である尾身財務大臣より「平成18年度製造通常貨幣及び記念貨幣は、すべてその量目が適正であることが確認できた」旨の宣言が行われた。

〔参考〕

局内試験規程に基づく検査実施回数

品位試験：2,052回

量目試験：4,819回

直径試験：550回

厚さ試験：550回

第135次製造貨幣大試験

実施日：平成18年11月6日(月)

執行官：尾身財務大臣

対象貨幣：平成18年度製造通常貨幣及び国際連合加盟50周年記念千円銀貨幣

試験方法：貨幣の種類ごとに、製造枚数に応じて一定割合で抽出のうえ、1,000枚ごとに集合秤量の方法により、貨幣の量目の精度について行われている(ただし、1,000枚に満たない場合は100枚単位、千円銀貨幣については、1枚ごとの個別秤量(電子天秤)の方法による。)

納品後の返品の有無

品質マネジメントシステムに基づき作業標準を遵守し、納品貨幣の返却件数ゼロを維持した。

【 納品した貨幣 】

流通貨幣：12億510万枚

販売貨幣：157万枚

(ブルーフ25万セット、記念貨幣7万セット)

二. 損率改善

トラブル発生時における迅速な対応の実施状況

平成17年度に引き続き、日常の設備維持管理、予防保全に重点を置いた定期的な設備の維持管理を実施した。

具体的には、予防保全と故障発生時における迅速な対応が可能となるよう、保全担当職員の電子回路読解技能等の能力向上に努める一方で、作業上重要な予備部品の事前調達を徹底した。また、保全担当職員が、過去の故障実績を基に故障が多い箇所や部品の抽出を行うほか、日常点検及び定期的な部品交換等による予防保全について、現場職員との相互間で水平展開を図った。

さらに、生産保全の向上を図るため、TPM指導コンサルタントを招き、TPM活動(全員参加の生産保全)に関する研修(平成18年5月、6月及び8月)等を行い、TPM活動への取組みに努めた。

平成18年度は、以上の予防保全の取組みや故障発生時における点検結果・故障事例を生かした迅速な対応により、故障件数が平成17年度の20件から15件まで減少し、故障停止時間も平成17年度の87時間から67時間に減少した(「設備の保守点検の状況」参照)。

500円ニッケル黄銅貨幣の、期間中の平均仕損率

平成17年度に引き続き、日々における各工程の損率把握と分析を行い、その情報の関係課へのフィードバックを毎週行うことで、年度内を通じて仕損率改善に努めた結果、平成18年度におけるニッケル黄銅貨幣の仕損率は0.5%となった。

	<p>〔参考〕中期計画の目標（目標期間中の仕損率の平均が平成13年度の実績値5.2%を下回ること）に対し、平成15年度仕損率は2.4%、平成16年度仕損率は0.9%、平成17年度仕損率は0.6%となっている。</p>	
評価の指標	<p>イ．財務大臣の定める製造計画の達成 生産管理システム及びERPシステムの運用による生産管理体制の充実強化の状況 設備の保守点検の状況 貨幣の安定的かつ確実な製造の状況 財務大臣の定める製造計画の達成状況</p> <p>ロ．柔軟で機動的な製造体制の構築 製造計画の変更にも対応できる柔軟で機動的な製造体制の構築状況 組織・規程の見直しについての検討状況 貨幣部門における技能研修の実施状況</p> <p>ハ．純正画一な貨幣の製造 ISO-9001の活用による品質管理体制の充実状況 純正画一な貨幣の製造状況 納品後の返品の有無</p> <p>ニ．損率改善 トラブル発生時における迅速な対応の実施状況 500円ニッケル黄銅貨幣の、期間中の平均仕損率</p>	
評価等	評定	（理由・指摘事項等）
	A	<p>貨幣の製造については、財務大臣の定める貨幣製造計画を達成し、高品質で純正画一な貨幣の確実な製造を行っている。ISO-9001の活用による品質管理体制の充実に努めている。機動的な製造体制により、製造計画の変更にも柔軟に対応できている。また、故障予防保全の取組みなどにより、故障件数が17年度の20件から15件まで減少、故障停止時間も17年度の87時間から67時間に減少、500円ニッケル黄銅貨幣の仕損率が0.5%と良好であったことは評価できる。</p> <p>設備の管理面では、TPM活動や故障発生時における迅速な対応により、故障件数、停止時間ともに前年度比減少し、経費削減が図られた。</p> <p>以上を総合的に勘案して、本項目の評定をAとする。</p>

独立行政法人造幣局 事業年度評価の項目別評価シート（7）

大項目：2．国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

中項目：（1）貨幣の製造等

小項目：偽造防止技術等の効率的かつ効果的な研究開発等

中期目標	<p>造幣局は、貨幣の偽造抵抗力の向上及び製造工程の効率化を図るため、重点分野が明確化された調査及び研究開発の基本計画を立案するものとする。</p> <p>これに基づき、費用対効果を勘案し、民間からの技術導入、国内外の技術交流や会議への参加などを含めた具体的な計画を策定し、調査及び研究開発を実施するものとする。</p> <p>また、造幣局は、研究開発についての事前、中間、事後の評価を確実に行うものとし、その結果に基づき計画の必要な見直しを行うものとする。</p>
中期計画	<p>貨幣の偽造防止技術等の研究開発については、偽造抵抗力の向上に関する研究開発はもとより、貨幣製造技術及び勲章等の金属工芸品製造技術の一層の高度化及び製造工程の効率化を図るため、重点分野が明確化された調査及び研究開発の基本計画を立案します。これに基づき、費用対効果を勘案し、民間からの技術導入も含め、具体的な計画を策定し、調査及び研究開発を実施します。</p> <p>また、流通貨幣及び記念貨幣に関する国内外の種々の情報や金属加工及び試験分析等に関する幅広い分野の情報を調査・収集し、これらを整理してデータベース化するとともに、得られた情報を行政部門を含む国民各層に還元するなど積極的に業務に活用します。</p> <p>さらに、世界造幣局長会議をはじめとした貨幣製造技術や分析技術等に関する国際会議へ積極的に参加し、海外の貨幣製造技術や偽造防止技術等に関する最新の様々な情報を交換することにより、造幣事業に関する国際交流を図ります。</p> <p>中期目標の期間中、国内外の会議、学会等での発表・参画が50件以上となるように努めます。</p> <p>研究開発は、定期的実施する研究管理会議により、事前、中間、事後の評価を確実にを行い、その結果に基づき必要に応じて計画の見直しを行います。</p>
（参考） 年度計画	<p>貨幣の偽造防止技術等の研究開発については、偽造抵抗力の向上に関する研究開発はもとより、貨幣製造技術及び勲章等の金属工芸品製造技術の一層の高度化及び製造工程の効率化を図るため、重点分野が明確化された調査及び研究開発の基本計画に従い、研究開発を行います。</p> <p>平成18年度の研究開発については、新しい偽造防止技術の研究開発、新製品開発に寄与する研究開発及び各事業分野に共通する合理化・効率化に寄与する研究開発の3つを基本方針とします。この基本方針に基づき、費用対効果及び民間からの技術導入も勘案しながら平成18年度に実施する研究テーマ等の具体的な研究開発計画を策定し、調査及び研究開発を実施します。</p> <p>また、流通貨幣及び記念貨幣に関する国内外の種々の情報や金属加工及び試験分析等に関する幅広い分野の情報を調査・収集し、これらを整理してデータベース化するとともに、得られた情報を行政部門を含む国民各層に還元するなど積極的に業務に活用します。</p> <p>諸外国の造幣局との間において、偽造防止技術、貨幣製造技術及び分析技術等に関する最新の様々な情報を交換し、引き続き造幣事業に関する国際交流に努めます。</p>

	<p>国内外の会議、学会等での発表・参画の実績が、平成 18 年度中に 10 件以上となるよう努めます。</p> <p>研究開発は、造幣局内で定期的実施する研究管理会議により、事前、中間、事後の評価を確実にいき、その結果に基づき必要に応じて計画の見直しを行います。</p>								
<p>業務の実績</p>	<p>調査及び研究開発の基本計画の立案状況</p> <p>研究開発については、中期計画において、「新しい偽造防止技術の研究開発」、「新製品開発に寄与する研究開発」及び「各事業分野に共通する合理化・効率化に寄与する研究開発」の 3 つを基本方針としており、平成 18 年度についてもこの方針に基づき、具体的な研究開発計画を策定した。</p> <p>なお、基本計画の詳細については別添「研究開発の基本計画と主要研究課題について」のとおりである。</p> <p>調査及び研究開発の具体的な実施計画の策定状況</p> <p>平成 18 年度の研究開発は、研究活動を、新しい偽造防止技術の研究開発、新製品開発に寄与する研究開発、各事業分野に共通する合理化・効率化に寄与する研究開発の 3 つに区分し、25 件の研究テーマについて実施した。</p> <p>平成 18 年度の研究テーマを区分すると以下のとおり。</p> <table data-bbox="414 918 1308 1108"> <tr> <td>・新しい偽造防止技術の研究開発</td> <td>9 件</td> </tr> <tr> <td>・新製品開発に寄与する研究開発</td> <td>5 件</td> </tr> <tr> <td>・各事業分野に共通する合理化・効率化に寄与する研究開発</td> <td>11 件</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計 25 件</td> </tr> </table> <p>調査及び研究開発の実施状況</p> <p>平成 18 年度における調査及び研究開発は、当初策定した実施計画のとおり新規テーマ 9 件、継続テーマ 16 件の計 25 件の研究テーマについて実施した（このうち、平成 19 年度に継続したもの 11 件、別のテーマに統合したもの 1 件、予定された成果が得られ完了したもの 11 件、予定された成果が見込まれず終了したもの 2 件）。実用性の重視、的確な研究所運営に努め、重点課題である「微細加工に関する研究」等で成果が得られた。</p> <p>その主な研究成果は次のとおりである。</p> <p>(イ) 実用化、製品化されたもの：1 件</p> <p>「微細加工に関する研究」の研究成果であるグラデーシオン潜像が「外輪蒸気船メダル」に初めて採用され、貨幣としても「南極地域観測 50 周年記念貨幣」で初めて採用された。</p> <p>(ロ) いつでも実用化できるレベルに達したもの：1 件</p> <p>「新しい縁加工技術の開発」の研究において斜めギザ定位置保持機構を開発し、750s.p.m.の定常圧印速度において1,000万枚の連続圧印テストを行い、その実用性と耐久性を確認した。</p> <p>〔参考〕この研究成果は、日本ブラジル交流年及び日本人ブラジル移住100周年記念500円ニッケル黄銅貨幣に採用される予定。</p> <p>(ハ) 平成 18 年度中にかなりの進展があったもの：2 件</p> <p>・「レーザーによる微細加工技術の高度化に関する研究」では、貨幣への転写に最</p>	・新しい偽造防止技術の研究開発	9 件	・新製品開発に寄与する研究開発	5 件	・各事業分野に共通する合理化・効率化に寄与する研究開発	11 件		計 25 件
・新しい偽造防止技術の研究開発	9 件								
・新製品開発に寄与する研究開発	5 件								
・各事業分野に共通する合理化・効率化に寄与する研究開発	11 件								
	計 25 件								

も有利な微細点加工の加工条件を確立した。

・「ホログラムメダルの加工技術の開発」では、ホログラムスタンパーの極印への貼付けに関し、より密着性の高い手法を考案し、転写性・耐久性が向上した。

(二) 特許出願したもの：3件

研究テーマ「クラッド材の製造技術に関する研究(箔クラッド)」、「ゾルゲル法の多様な製品への適用条件に関する研究」及び「トリメタルメダルの量産化技術の開発」の研究成果として、3件の特許出願を行った。

種々の情報の調査・収集状況

企業、研究機関及び大学等の研究者・技術者から関連情報を調査・収集するとともに、講演会及び学会への参加を通じて、最新の情報を収集した。

さらに、世界造幣局長会議(MDC)及び同技術委員会、海外造幣局、国際見本市、技術雑誌等からの情報収集も積極的に実施した。

平成18年度に実施した情報の調査・収集等の実績は次のとおりである。

・研究機関、大学への相談等	10件
・企業からの収集等	23件
・講演会、会議等の参加	16件
・各種学会への参加	2件
・国際見本市等	8件
・学会誌等からの情報の調査・収集	338件
・MDC技術委員会、アセアン造幣技術会議での情報の調査・収集	7件
・海外造幣局等からの情報の調査・収集	3件
計	407件

(注)世界造幣局長会議(MDC)技術委員会とは、MDCの委員会として特定の技術的な課題を研究するために設置されたもので、平成14年の第22回MDC(大阪開催)から平成16年の第23回MDC(サンフランシスコ開催)まで活動していた材料委員会をさらに発展させたもの。

調査・収集した情報のデータベース化の状況

研究情報については、外部と切り離された専用ネットワークで構成された研究ファイル管理システムに入力するとともに、その他調査・収集した種々の技術情報については、技術情報システムへ入力し、各々データベース化を図った。

(内訳)平成18年度にデータベース化した情報437件の内訳

- ・研究報告等に関する資料：164件(例「貨幣検査装置の開発に関する研究」)
- ・貨幣の製造に関する資料：260件(例「各種記念貨幣に関する情報」)
- ・装金、極印に関する資料：11件(例「磁気研磨の原理と最新応用」)
- ・試験、検定に関する資料：2件(例「小型連続鋳造装置に関する技術調査」)

[参考]平成15年度507件、平成16年度208件、平成17年度815件

得られた情報の、行政部門を含む国民各層への還元等の活用状況

造幣局ホームページにおいて、年銘別貨幣製造枚数一覧、記念貨幣一覧及び貨幣の製造工程といった貨幣に関する基本的な情報に加え、偽造・変造貨幣を見分けるための情報を提供するという観点から、500円ニッケル黄銅貨幣の偽造変造防止対策をわかり

やすく紹介している。

また、貨幣に関するよくある質問に答えるための貨幣Q & A、工場見学・博物館見学・各種イベント開催のご案内、貨幣セット等新規販売品のお知らせを行うなど、インターネットを活用して種々の情報発信を行っている。

これらの情報に加え、新たな研究成果の中から、下記の3件の研究報告をホームページに追加掲載した。

- (イ) トリメタルメダルの量産化技術の開発
- (ロ) ゴルゲル法による防錆塗装の研究
- (ハ) 高純度白金の精製技術に関する研究

造幣事業に関する国際交流の状況

平成18年度の主な国際交流としては、以下の5件がある。

件名	概要
第24回世界造幣局長会議(MDC)に出席し、セッションにおいて発表	・平成18年5月にフランス(パリ)で開催されたMDCの技術セッションにおいて「極印表面処理の現状と将来」及び「画像処理技術と品質管理」の2件の発表を行った。
MDC運営会議に参加	・次のとおり開催された運営会議に出席した。 平成18年5月 フランス(パリ) 平成18年8月 アメリカ(デンバー) 平成19年2月 ドイツ(ベルリン)
MDC技術委員会に参加	・次のとおり開催された委員会会合に出席した。 平成18年5月 フランス(パリ) 平成18年9月 カナダ(オタワ)
MDCマーケティング委員会に参加	・次のとおり開催された委員会会合に出席した。 平成18年5月 フランス(パリ) 平成18年8月 アメリカ(デンバー) 平成19年2月 ドイツ(ベルリン)
ヨーロッパにおける通貨事情の調査	・平成19年3月にベルギー、ドイツへ出張し、欧州の偽造対策機関、各国造幣局を訪問し、偽造貨幣の現状と偽造防止技術等について調査及び情報交換を行った。

国内外の会議・学会等での発表・参画件数

MDC(本会議)における発表(平成18年5月1~4日)

フランス(パリ)で開催された第24回世界造幣局長会議において、「極印表面処理の現状と将来」について発表した。

MDC(本会議)における発表(平成18年5月1~4日)

フランス(パリ)で開催された第24回世界造幣局長会議において、「画像処理技術と品質管理」について発表した。

大阪大学工学部マテリアル系学科との技術交流会(平成18年5月29日)

大阪大学工学部の担当教官と学生(75人)に貨幣製造技術を中心とした、造幣局における研究開発業務についての説明を行うとともに情報交換を行った。

大阪府立産業技術総合研究所との技術交流会(平成18年9月7日)

造幣局からは「PVD処理極印の実用化の状況」を、産業技術総合研究所からは「代替クロムメッキへの取組み」及び「ドライコーティングへの取組み」について発表し、情報交換を行った。

MDC技術委員会への出席(平成18年9月18~22日)

カナダのオタワ及びウイニペグで開催されたMDC技術委員会に出席し、当局がリーダーを務める極印表面処理小委員会において、「ブルーフ貨幣用極印の表面処理」に関する今後の共同研究の進め方等について議論及び取りまとめを行った。

日本分析化学会第55年会（平成18年9月21日）

日本溶接協会貴金属ろう部会分析委員会の構成委員として共同で研究した「ICP発光分析法による含スズ銀ろう材の組成分析に向けた試料処理方法検討」を発表した。

日本自動販売機工業会との技術交流会（平成18年11月30日）

造幣局からは「レリーの凸凹状態の違いが検銭機構に与える影響」について、自販機工業会からは「電子マネー／モバイルクレジットの現状と自販機における対応状況」について発表し、情報交換を行った。

ワールドマネーフェア（ベルリン）における発表（平成19年2月2日）

ベルリンで開催されたワールドマネーフェアのメディアフォーラムにおいて、南極地域観測50周年記念500円ニッケル黄銅貨幣入り平成19年銘貨幣セット、ジャパン・コインセット、桜の通り抜け2007ブルーフ貨幣セットなどの平成19年銘貨幣セット製品を発表した。

MDCマーケティング委員会における発表（平成19年2月3日）

ドイツのベルリンで開催されたMDCマーケティング委員会で、MDCメンバー各国に対し実施した、他国との共同製品の取組状況に関するアンケート調査の結果を報告した。

日本鉄鋼協会・日本金属学会関西支部例会の開催（平成19年2月9日）

造幣局研究所で開催された日本鉄鋼協会・日本金属学会関西支部の例会において造幣局の事業及び技術研究の状況を紹介した。

応用物理学会春季講演会における発表（平成19年3月27日）

銀製品の防錆用の塗膜である「ゾル・ゲル法による銀用・無機ハイブリッドコーティング」について発表した。

研究開発の事前、中間、事後評価の状況

研究開発を行うに当たっては、研究管理会議を開催し、研究目標等の妥当性、研究開発の進捗状況及び研究手法の妥当性、研究成果及び今後の進め方について、事前、中間、事後の評価を行いつつ研究開発を進めた。

1. 事前評価（平成18年6月1日、2日）

第1回研究管理会議においては、特に新規テーマに重点を置き、研究目標・研究手法の妥当性、さらに研究計画の妥当性について事前評価を実施し、議論を行った。

2. 中間評価（平成18年10月19日、20日）

第2回研究管理会議においては、研究開発の進捗状況及び研究手法の妥当性について中間評価を実施するとともに、問題点についての対処策の検討を行った。様々な議論の中で、研究手法について基本方針の変更を行うことが適当と判断されたテーマ（例えば、「PVD法による極印表面処理技術の実用化」）については新しいアプローチの方法を、これ以上研究を継続しても進展の見込みが少ない研究テーマ（例えば、「金銀電鍍技術の実用化の研究」）については、研究の終了の是非についての議論が行わ

	<p>れた。</p> <p>3. 事後評価（平成19年2月15日、16日）</p> <p>第3回研究管理会議においては、各課題の研究成果及び今後の進め方等について議論し、事後評価を行った。</p> <p>なお、研究管理会議の開催に当たっては、外部の専門家からのアドバイスを受けるため齋藤氏（大阪大学名誉教授）及び永田氏（元大阪府産業技術総合研究所主任研究員）の両名にも出席していただいた。</p> <p>齋藤氏からは、「新しい偽造防止技術の研究開発」をはじめとして重点課題として取り組んでいる研究開発については、概ね着実な成果が得られているとの評価を受けた。</p> <p>事後評価を踏まえた研究開発計画の見直しの状況</p> <p>事後評価を踏まえ、25件のうち、11件については予定された成果が得られたので研究を完了し、2件については予定された成果が見込まれず終了とし、1件については別の研究テーマに統合して研究を継続することとし、11件については予定どおり平成19年度に継続することとした。</p>
<p>評価の指標</p>	<p>調査及び研究開発の基本計画の立案状況</p> <p>調査及び研究開発の具体的な実施計画の策定状況</p> <p>調査及び研究開発の実施状況</p> <p>種々の情報の調査・収集状況</p> <p>調査・収集した情報のデータベース化の状況</p> <p>得られた情報の、行政部門を含む国民各層への還元等の活用状況</p> <p>造幣事業に関する国際交流の状況</p> <p>国内外の会議・学会等での発表・参画件数</p> <p>研究開発の事前、中間、事後評価の状況</p> <p>事後評価を踏まえた研究開発計画の見直しの状況</p>
<p>評価等</p>	<p>評定</p> <p>（理由・指摘事項等）</p>

	A	<p>「新しい偽造防止技術の研究開発」、「新製品開発に寄与する研究開発」及び「各事業分野に共通する合理化・効率化に寄与する研究開発」の3つの基本方針に基づき、具体的な開発計画の策定、調査・研究開発を実施している。</p> <p>流通貨幣及び記念貨幣に関する国内外の情報や金属加工・試験分析に関する幅広い情報を調査・収集し、これらのデータベース化を図った。</p> <p>諸外国の造幣局等との間で、偽造防止技術、貨幣製造技術及び分析技術などの最新の情報を交換し、交流に努めている。</p> <p>研究を行うに当たっては、研究テーマが設定され、事前・中間・事後に評価が的確に行われており、無駄のない活発な研究を実施している。</p> <p>18年度において、25の関連テーマについて研究開発を行い、実用化、製品化されたのが1件、実用化できるレベルに達したのが1件、特許出願を3件と成果を上げている。</p> <p>実用化された「微細加工に関する研究」成果のグラデーション潜像は「外輪蒸気船メダル」で採用され、貨幣においても「南極地域観測50周年記念貨幣」に採用された。</p> <p>以上を総合的に勘案して、本項目の評定をAとする。</p>
--	---	--

別添

研究開発の基本計画と主要研究課題について

1. 研究開発の基本的な考え方

研究開発については、独立行政法人造幣局の中期計画及び年度計画に基づき、「新しい偽造防止技術の研究開発」、「新製品開発に寄与する研究開発」及び「各事業分野に共通する合理化・効率化に寄与する研究開発」の3つを基本方針としているところであるが、中でも「新しい偽造防止技術の研究開発」は、平成18年度は沈静化しているものの、平成16年度から偽造500円貨幣が多量に見つかっていること等を踏まえると、喫緊の最重要課題として取り組む必要がある。

また、「新製品開発に寄与する研究開発」及び「各事業分野に共通する合理化・効率化に寄与する研究開発」についても、各事業の発展に寄与し得る新製品開発や技術開発に向けて、効率的かつ効果的な研究成果が得られるよう、鋭意取り組む必要がある。

さらに、これらの研究開発活動を効率的かつ効果的に促進する観点から、外部機関との連携の強化についても念頭におきつつ、具体的な研究開発計画を策定・実施していくこととする。

2. 平成18年度の主要研究課題

(1) 平成18年度の研究課題

平成18年度の研究課題は、年度計画の基本方針、平成17年度との関連及び各部署からの要請を踏まえ25件を設定し、それぞれ完了の目途を掲げて鋭意取り組むこととする。

その基本方針別の内訳は、次のとおりである。

- ・新しい偽造防止技術の研究開発・・・・・・・・・・・・・・・・・・9件
- ・新製品開発に寄与する研究開発・・・・・・・・・・・・・・・・・・5件
- ・各事業分野に共通する合理化、効率化に寄与する研究開発・・11件

合計25件(内9件は新規)

なお、研究をより効率的かつ効果的に行うとの観点から、研究の基本方針並びに緊急度、効果度及び期待度を主な基準として、以下の6件を重点課題とした。

【重点課題】

- (イ) 新しい偽造防止技術の研究開発(3件)
- (ロ) 新製品開発に寄与する研究開発(1件)
- (ハ) 各事業分野に共通する合理化・効率化に寄与する研究開発(2件)

(2) 研究開発機能の確実な向上

イ 実用性の重視

研究開発部門の役割としては、新技術等を製品に盛り込み、国民への提供、又は製造部門への確実な技術移転を行う、の二つの点を通じてその任務を完了するものと考えている。

□ 的確な研究所運営

研究活動の運営にあたっては、研究管理会議を有効に活用して、外部有識者及び各部局から広く意見を求めることにより、的確に運営することとする。

大学及び公的研究機関との交流を通じて幅広く情報収集を行うとともに、職員の資質の向上を図る。

また、研究成果を当局職員へ紹介する場として研究発表会や、研究成果の展示等を行うことにより、研究職員の士気の高揚に努める。

以 上

独立行政法人造幣局 事業年度評価の項目別評価シート（８）

大項目：2．国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

中項目：（１）貨幣の製造等

小項目： 貨幣の信頼を維持するために必要な情報の提供

中期目標	<p>貨幣への信頼維持のためには、貨幣の特徴など、貨幣に係る情報が国民にわかりやすく提供される必要がある。</p> <p>また、必要に応じて現金取扱機器の製造業者等に対し機密保持に配慮したうえで貨幣に関する情報が提供されることが求められる。</p> <p>このため、造幣局は、通貨関係当局と連携し、これらに必要な情報を提供するものとする。</p>														
中期計画	<p>国民各層に造幣事業や貨幣に関する知識や理解を深めるため、造幣局のホームページにおいて貨幣の特徴等、各種情報の発信を行うとともにその内容も分かりやすく魅力的なものになるよう常に配慮します。</p> <p>また、工場見学の積極的な受入れ、造幣博物館の展示内容の充実及び地方博覧会等への出展とともに、桜の通り抜け等のイベントの機会を活用して、造幣局と国民が直接触れ合う機会を幅広く提供します。</p>														
（参考） 年度計画	<p>国民各層に造幣事業や貨幣に関する知識や理解を深めてもらうため、造幣局のホームページにおいて貨幣の特徴等、各種情報の発信を行います。その内容を充実させることにより、分かりやすく魅力的なものになりますようにします。</p> <p>また、工場見学の積極的な受入、造幣博物館の展示内容の充実及び地方博覧会等への出展とともに、桜の通り抜け等のイベントの機会を活用して、造幣局と国民とが直接触れ合う機会を幅広く提供します。</p>														
業務の実績	<p>ホームページの内容の充実の状況</p> <p>平成18年度は、記念貨幣に関する知識や理解を深めてもらうほか、造幣事業に関する最新情報を掲載することにより、情報提供の充実に努めた。</p> <p>ホームページの更新の内容は次のとおり。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="width: 15%;">更新月</th> <th>更新内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">4月</td> <td>「販売」のサイトの「金属工芸品の種類」を増やした。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6月</td> <td>「Q & A」のサイトに新たに「桜の通り抜けQ & A」を掲載した。 随意契約の基準が定められている関係規程を掲載した。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7月</td> <td>「桜の通り抜けQ & A」英語版を掲載した。 随意契約の内容及び随意契約によることとした理由等を掲載した。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">8月</td> <td>「販売」のサイトに、南極地域観測50周年記念貨幣の発行枚数及び国際連合加盟50周年記念貨幣の販売価格を掲載したほか、貨幣セットの豆知識の内容を追加した。 「ぞうへいきょく探検隊」の「世界の貨幣」にサッカーワールドカップの記念貨幣を紹介、「いろんなかへいセット」の内容を追加した。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9月</td> <td>「調達情報」のサイトに、「随意契約の公表」を追加した。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3月</td> <td>高齢者や障害者に配慮した内容とするため、文字を大きくすることができるなどウェブコンテンツに関するJIS規格X8341-3に適合するようホームページを更新した。</td> </tr> </tbody> </table>	更新月	更新内容	4月	「販売」のサイトの「金属工芸品の種類」を増やした。	6月	「Q & A」のサイトに新たに「桜の通り抜けQ & A」を掲載した。 随意契約の基準が定められている関係規程を掲載した。	7月	「桜の通り抜けQ & A」英語版を掲載した。 随意契約の内容及び随意契約によることとした理由等を掲載した。	8月	「販売」のサイトに、南極地域観測50周年記念貨幣の発行枚数及び国際連合加盟50周年記念貨幣の販売価格を掲載したほか、貨幣セットの豆知識の内容を追加した。 「ぞうへいきょく探検隊」の「世界の貨幣」にサッカーワールドカップの記念貨幣を紹介、「いろんなかへいセット」の内容を追加した。	9月	「調達情報」のサイトに、「随意契約の公表」を追加した。	3月	高齢者や障害者に配慮した内容とするため、文字を大きくすることができるなどウェブコンテンツに関するJIS規格X8341-3に適合するようホームページを更新した。
更新月	更新内容														
4月	「販売」のサイトの「金属工芸品の種類」を増やした。														
6月	「Q & A」のサイトに新たに「桜の通り抜けQ & A」を掲載した。 随意契約の基準が定められている関係規程を掲載した。														
7月	「桜の通り抜けQ & A」英語版を掲載した。 随意契約の内容及び随意契約によることとした理由等を掲載した。														
8月	「販売」のサイトに、南極地域観測50周年記念貨幣の発行枚数及び国際連合加盟50周年記念貨幣の販売価格を掲載したほか、貨幣セットの豆知識の内容を追加した。 「ぞうへいきょく探検隊」の「世界の貨幣」にサッカーワールドカップの記念貨幣を紹介、「いろんなかへいセット」の内容を追加した。														
9月	「調達情報」のサイトに、「随意契約の公表」を追加した。														
3月	高齢者や障害者に配慮した内容とするため、文字を大きくすることができるなどウェブコンテンツに関するJIS規格X8341-3に適合するようホームページを更新した。														

ホームページによる情報提供の状況

- ホームページによる情報提供サービスとして、新しい貨幣セットの販売情報、イベントの開催情報及びホームページの更新情報を希望者にその都度配信（メールマガジン）した。また、メールマガジンの認知度を高めるため、平成17年度に引き続き顧客サービス室がイベント等で毎年実施しているアンケートの中で周知した。
- 当局が新聞発表した、イベントの開催や貨幣セット販売開始等の情報は、発表後直ちにホームページに掲載し、情報を迅速に伝えるようにした。

ホームページの更新状況は次のとおり。

項目	件数	備考
記念貨幣情報	2件	
販売情報	37件	貨幣セット及び金属工芸品
イベント情報	14件	
研究報告	1件	平成17年度
公開情報	9件	年度計画・役職員給与・業務実績の評価・財務諸表ほか
調達情報	55件	入・落札情報 ほか
その他	21件	

平成18年度における造幣局ホームページへのアクセス件数は、814,932件となった。

〔参考〕 過去5年間のホームページのアクセス件数

(件)				
14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
564,132	678,543	830,195	654,947	814,932

工場見学の受入の状況

1. 工場見学の周知

工場見学に関する取材等に積極的に応じ、できるだけ多くの情報誌やホームページなどに紹介されるようにしたほか、見学案内パンフレットを、造幣局IN等のイベント会場で配布したり、外部の多くの博物館等の施設に常置されるようにするなど、活発なPRを行い、積極的な工場見学の受入を図った。

局別	内容
本局	・正門及び北門掲示板にポスターを掲示し、正門受付に見学案内リーフレットを常置 ・日本銀行神戸支店、愛知信用金庫資料館、国立印刷局彦根工場、岐阜県博物館に新たに当局のパンフレット及び工場見学のリーフレットを常置 ・徳島大学主催の「第10回科学体験フェスティバルIN徳島」において工場見学をPRするポスターの掲示及びリーフレットの配布
東京支局	・造幣東京博物館リーフレットを常置 地元の豊島区観光課、国立印刷局「お金と切手の博物館」、日本銀行金融研究所「貨幣博物館」のほか、新たに東京都豊島区及び文京区内の小中学校（91校）並びに図書館（18館）、国立印刷局「王子展示室」、古代オリエント博物館、山梨中銀金融資料館、紙の博物館、甲府信用金庫
広島支局	・パンフレットの配布 広島市佐伯区内の小中学校（19校）

2. 工場見学会の実施

通常の工場見学以外に、イベントや夏休みに合わせた工場見学会を企画し、次のとおり実施した。

件名	内容	実施月	参加人数
大阪コインショー工場見学会	造幣局の近隣で開催される同イベント会場で工場見学の受付を行い、工場見学会を実施した。	6月23日	100人
夏休み親子の工場見学会	造幣局ホームページで夏休み親子の工場見学会の周知をし、電話受付により応募者に対して工場見学会を実施した。	8月4日 8月28日	128人
金融体験セミナー	中学生とその保護者を対象にした大阪府教育委員会主催の同セミナーの開催に協力し、同セミナー参加者の工場見学を行った。	8月7日	24人
貨幣の製造から流通までを学ぶ見学会	日本銀行大阪支店と共同企画で小学生を対象に工場見学会を実施した。	10月11日	40人

3. その他

お金のミニ知識をマンガで紹介した小冊子を作成し、夏休み期間中、小学生の工場見学者に配布した。

平成18年度の工場見学者数は、62,194人となった。

〔参考〕 過去5年間の工場見学者数

(人)				
14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
40,626	47,166	46,674	49,350	62,194

造幣博物館の展示内容の充実の状況

新しく購入した収蔵品の展示を行うことに伴い、一部の展示品の入替えを行い、より分かりやすく魅力的な博物館となるようにした。

また、造幣博物館の収蔵品を広く国民に紹介するため、2回の特別展を開催するとともに、できるだけ多くの方々に来館していただけるよう次のとおり休日にも開館した。

(表) 平成18年度に開催した特別展と土日開館した常設展

イベント	日程	入館者数
第4回大阪コインショー - (常設展の土日開館)	平成18年6月24日・25日	277人
世界の珍しい貨幣展 (特別展)	平成18年8月18日～31日	2,673人
泉布観重要文化財指定50周年記念協賛 (常設展の土日開館)	平成18年10月21日・22日	139人
関西文化の日協賛 (常設展の土日開館)	平成18年11月18日・19日	144人
金貨と金製品の世界 (特別展)	平成19年3月20日～27日	1,893人

平成18年度の造幣博物館入館者数は、44,173人となった。

〔参考〕 過去5年間の造幣博物館の入館者数

(人)				
14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
42,142	44,653	46,962	45,046	44,173

また、上記のほか、造幣東京博物館は、大人のための社会見学ツアーに組み入れられるなど入場者数が大幅に増加しており、首都圏における情報発信機能を強化するため

に、展示品を充実した。

〔参考〕 造幣東京博物館の入館者数

(人)				
14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
15,884	22,074	23,596	23,244	35,027

国民と直接触れ合う機会の設定の状況

1. 造幣局IN等のイベント

イベント	日程	入場者数
造幣局主催		
桜の通り抜け	平成18年4月12日～18日	829,000人
花のまわりみち	平成18年4月14日～20日	64,616人
造幣局IN甲府	平成18年7月26日～31日	2,602人
造幣東京フェア	平成18年10月7日～9日	3,797人
佐伯区民まつり協賛特別展	平成18年11月8日～12日	936人
造幣局INつくば	平成19年2月2日～7日	3,558人
造幣局出展		
和歌山商工まつり	平成18年10月7日～8日	26,000人
造幣局後援		
東京コインコンヴェンション	平成18年5月2日～4日	11,800人
大阪コインショー	平成18年6月23日～25日	2,850人
お金と切手の展覧会（IN長崎）	平成18年8月16日～22日	4,647人
収蔵品の出品		
京都文化博物館「貨幣の歴史と近代京都の100年展」	平成18年6月3日～7月2日	-
福井市立郷土歴史博物館「江戸時代のお金展」	平成18年9月30日～11月5日	-
大阪歴史博物館「開館5周年記念・泉布観重要文化財指定50周年記念特別展」	平成18年10月7日～12月11日	-

2. 出張講演

出張講演は、造幣局博物館に収蔵されている貨幣（和同開珎から大判・小判等の古銭）や造幣局が製造してきた貨幣及びお金にまつわる話について、当局の職員が依頼先に出向いて講演を行うもので、平成18年度における実績は次の18件である。

(表) 平成18年度における出張講演の実績

出張講演先	講演日	参加者
1.日本分析化学専門学校生	平成18年5月16日	18人
2.梅花東幼稚園親子学級運営委員会	平成18年6月13日	25人
3.第4回大阪コインショ-参加者	平成18年6月24日	60人
4.大阪府府民講座	平成18年6月29日	57人
5.此花区老人福祉センタ-	平成18年7月12日	45人
6.夏休み親子工場見学参加者	平成18年8月4日	64人
7.ノートルダム学院小学1・2年生	平成18年8月22日	107人
8.特別展と夏休み親子教室	平成18年8月26日・27日	143人
9.夏休み親子工場見学参加者	平成18年8月28日	66人
10.城東区諏訪女性会	平成18年9月21日	48人
11.阪神有料道路サ-ビス協会	平成18年9月27日	158人
12.三田市立ゆりのき台中学校2年生	平成18年10月26日	350人
13.福井市立郷土歴史博物館市民講座	平成18年10月28日・29日	432人
14.瑞穂市瑞穂大学 寿・女性学部	平成18年11月9日	682人
15.広島佐伯区民祭り(広島支局展示室)	平成18年11月12日	100人
16.鈴鹿法人会女性部会	平成18年12月19日	80人
17.税理士会勉強会	平成19年1月16日	65人
18.特別展と春休み親子教室	平成19年3月21日・24日・25日	350人

延べ参加者 2,850人

3.事業案内ビデオの貸出し

事前学習用として申込のあった小中学校に対して貸出しを行った。(47件 81本)

4.政府広報への取材協力

政府広報ラジオ番組『グッドモーニングジャパン』において取り上げられた偽造通貨対策について取材に協力した。

評価の指標

ホームページの内容の充実の状況
 ホームページによる情報提供の状況
 工場見学の受入の状況
 造幣博物館の展示内容の充実の状況
 国民と直接触れ合う機会の設定の状況

評価等

評定

(理由・指摘事項等)

A

ホームページについて、高齢者や障害者に配慮した内容とする情報提供に引き続き努めたことや、貨幣、造幣事業への国民の理解を深めるよう内容の充実を図り、希望者にメールマガジンを配信するなど、各種情報の提供を行った。その結果、ホームページのアクセス件数も増加している。

工場見学に関する広報活動を積極的に展開し、イベントや夏休みを組み合わせた工場見学会を企画するなど、見学者に応じたコース設計を行った結果、見学者数は増加している。

博物館については、大阪、東京ともに展示内容を充実させるとともに、休日開館を実施するなどの運営努力を行っている。

大阪では入館者数が減少(対前年度比 2%)したものの、東京では民間旅行会社のツアーコースに組み入れられたこと等により入館者数が大幅に増加(対前年度比+50.7%)した。

以上を総合的に勘案して、本項目の評定をAとする。

独立行政法人造幣局 事業年度評価の項目別評価シート（ 9 ）

大項目： 2 . 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

中項目： （ 1 ） 貨幣の製造等

小項目： 貨幣の販売

中期目標	<p>造幣局は、購入者としての国民の要望に応えるため、貨幣セットの種類及びクレジット決済やコンビニエンスストアでの支払いなど代金支払方法の多様化を図るなど、国民へのサービスの拡充に努めるものとする。また、海外での販路拡大に努めるとともに、店頭販売のあり方について検討を進めるものとする。また、販売にあたっては、採算性の確保を図るものとする。</p> <p>（注）貨幣セットとは、未使用の貨幣を容器に組み入れ、造幣局が販売するものをいう。</p> <p>造幣局は、貨幣セットが国民の要望に込えているかを測定する指標として、貨幣セットの購入者に対し、満足度調査を実施するものとし、その結果を代金支払方法の改善等のサービス向上に活かすものとする。</p> <p>記念貨幣については、購入希望者が購入機会を均等に得られるよう公平な販売を行い、財務大臣が定めた数量を確実に販売するものとする。</p>
中期計画	<p>貨幣セットの販売に関しては、採算性の確保を図りつつ、国民のニーズに的確に対応するよう努めます。また、海外ディーラーの拡大や海外における展示会への参加等により、貨幣セットの海外での販路拡大に努めます。</p> <p>イ . 国民のニーズに的確に対応した貨幣セットの販売</p> <p>時代や世代を超えて国民の間に流行しているキャラクターや子供に人気のあるキャラクターを貨幣セットのパッケージや年銘板にアレンジするなど、新しい発想による貨幣セットの開発に取り組み、中期目標の期間中、5件以上の新製品開発に努めます。</p> <p>支払方法の多様化を図るため、コンビニエンスストアでの入金やクレジットカード決済等を導入し、サービス向上に努めます。</p> <p>また、近年の社会状況やコスト面を考慮し、インターネットによる販売等、適切な販売方法のあり方について検討を行います。</p> <p>さらに、国民のニーズを的確に把握するため、貨幣セット等の購入者及び公共イベントへの出展時の来客者をはじめとする顧客に対し、マーケティングのためのアンケート調査を実施し、満足度調査としては5段階評価で平均して4.0以上の評価が得られるよう努めます。アンケート調査の結果は、ミントセット、プルーフ貨幣セット及び記念貨幣を含む貨幣セットに対する国民のニーズや市場動向の的確な把握に努め、国民へのサービス向上に活かします。</p> <p>（注）ミントセットとは、1円から500円までの未使用の通常貨幣と、製造年度を表す年銘板をセットにしてケースに収納したものをいいます。</p> <p>ロ . 記念貨幣の適正公平な販売</p> <p>国家的な記念事業として発行される記念貨幣については、新聞広告等による案内や厳正な抽選方法により、購入の機会ができるだけ多くの国民に適正公平に与えられるようにするとともに、財務大臣が指定する数量の貨幣を確実に販売します。</p>

<p>(参考) 年度計画</p>	<p>貨幣セットの販売に関しては、採算性の確保を図りつつ、国民のニーズに的確に対応するよう努めます。また、海外ディーラーの活用方法をさらに一步前進させるべく、ワールドマネーフェア等海外における展示会等へ積極的に参加するなど、貨幣セットの海外での販路拡大に努めます。</p> <p>イ．国民のニーズに的確に対応した貨幣セットの販売</p> <p>新しい発想による貨幣セットの開発に取り組み、平成 18 年度中に 1 件以上の新製品開発を行います。このほか、国民のニーズに的確に対応した貨幣セットの販売に努めます。</p> <p>また、より一層のサービス向上を図るために平成 15 年度から実施した、コンビニエンスストアでの入金やクレジットカード決済、さらにインターネット販売や決済については、国民のニーズに応えられるよう、引き続き利便性の向上に努めます。</p> <p>さらに、国民のニーズを的確に把握するため、貨幣セット等の購入者及び公共イベントへの出展時の来客者をはじめとする顧客に対し、マーケティングのためのアンケート調査を実施し、満足度調査としては 5 段階評価（1：不満足、5：満足）で平均して 4.0 以上の評価が得られるよう努めます。アンケート調査の結果は、貨幣セットに対する国民のニーズや市場動向の的確な把握と国民へのサービス向上に活かします。</p> <p>ロ．記念貨幣の適正公平な販売</p> <p>国家的な記念事業として発行される記念貨幣については、新聞広告等による案内や厳正な抽選方法により、購入の機会ができるだけ多くの国民に適正公平に与えられるようにするとともに、財務大臣が指定する数量の貨幣を確実に販売します。</p>
<p>業務の実績</p>	<p>イ．国民のニーズに的確に対応した貨幣セットの販売</p> <p>国民のニーズに的確に対応した貨幣セットの販売状況</p> <p>国民のニーズに的確に対応した貨幣セットの販売を行うとの方針の下、「南極地域観測 50 周年記念 5 百円ニッケル黄銅貨幣入り平成 19 年銘貨幣セット」の申込受付をしたところ、予定数量を上回ったため、抽選により販売したほか、童話ごんぎつねが昭和 7 年（1932 年）に児童雑誌「赤い鳥」に掲載されて 75 周年を記念した「ごんぎつね貨幣セット」、大阪の年中行事の一つとして知られる桜の通り抜けが 120 回目にあたることを記念した「桜の通り抜け 2006 プルーフ貨幣セット」を販売した。</p> <p>また、国民の間に流行している人気キャラクターをテーマにしたミントセットとして、「くまのプーさんとなかまたち 夢と冒険の 80 年 2006 貨幣セット」やメダルに初めて人物の肖像を取り入れた「石原裕次郎デビュー 50 周年記念 2006 プルーフ貨幣セット」を販売した。</p> <p>このほか、より多くの国民に喜ばれる製品の販売に取り組んだ結果、年度計画を上回る販売実績を計上した。</p>

【貨幣セット等の販売状況】(税抜き)

区 分	年度計画		販売実績	
	セット数	金額(千円)	セット数	金額(千円)
ミントセット	827,000	1,570,190	847,427	1,698,438
ブルーフ貨幣セット	265,000	2,729,524	249,778	2,699,505
記念貨幣セット	0	0	70,000	400,961
計	1,092,000	4,299,714	1,167,205	4,798,904

(注) 記念貨幣セット：平成18年に発行された国際連合加盟50周年記念千円銀貨幣セット

貨幣セットの新製品開発

従来のブルーフ貨幣セットに組み込まれていた銀メダルの代わりにオーストラリアのパーズ造幣局が製造した日豪交流年を記念するオーストラリアの法定記念貨幣を組み込み、海外造幣局とのコラボレーションという新しい基軸を創り上げた新製品として、「2006年日豪交流年ブルーフ貨幣セット」を販売した。

新たに、貨幣の表裏を見ることができるよう工夫を凝らしたりパーシブル容器を開発し、貨幣セット用のケースとして「南極地域観測50周年記念500円ニッケル黄銅貨幣入り平成19年銘貨幣セット」に採用し販売した。

〔参考〕

販売実績数量

- ・2006年日豪交流年ブルーフ貨幣セット
4万6千セット(販売予定数4万6千セット)
- ・南極地域観測50周年記念500円ニッケル黄銅貨幣入り平成19年銘貨幣セット
17万9千セット(販売予定数18万セット)

支払方法多様化への取組状況

通信販売による代金の支払方法については、平成15年度から多様化を図り、これまでに従来の銀行振込による支払方法に加え、郵便振込、コンビニエンスストアでの入金、インターネット販売でのクレジットカード決済による支払方法を追加している。

平成18年度の通信販売入金状況にみられるように、郵便振込が58%、コンビニエンスストアでの入金が42%を占めており、新しい支払方法が確実に定着している。

〔参考〕

【平成18年度通販決済方法別入金状況】

決済方法	件数(件)	割合(%)
郵便振込	487,496	58
コンビニ払込	352,891	42
銀行振込	3,782	0
クレジットカード決済	2,302	0
計	846,471	100

貨幣セットの海外での販路拡大への取組状況

貨幣セットに関する海外販売プログラムを、取引実績のあるディストリビューター(海外コインディラー)のほか、取引実績のないディストリビューターにも送付し、販路拡大を図ることとした。

平成18年度海外販売プログラム

区分	内容
平成18年第2次海外販売プログラム	2006年日豪交流年ブルーフ貨幣セット、人類の口承及び無形遺産に関する傑作の宣言(歌舞伎)貨幣セット、ジャパンコインセット
平成18年第3次海外販売プログラム	くまのプーさんとなかまたち夢と冒険の80年2006貨幣セット、石原裕次郎デビュー50周年2006ブルーフ貨幣セット等
記念貨幣プログラム	国連加盟50周年記念千円銀貨幣貨幣セット
平成18年第3次改訂版・平成19年第1次海外販売プログラム	”幻の金貨“メモリアルブルーフ貨幣セット、南極地域観測50周年記念500円貨幣入り貨幣セット等
平成19年第1次改訂版	ジャパンセット、ミントセット、ごんぎつねセット等

また、国内外で開催される国際マネーフェアに参加し、各種貨幣セットを展示・販売することにより当局製品の周知宣伝を図るとともに、取引実績のないディストリビューターとも積極的に商談の場を持ち、取引先の新規開拓を図った。併せて各フェアにおいて、ブラス来訪者に対し当局製品の嗜好に関する聴取り調査を行い、今後の製品開発に活かしていくこととした。

国際マネーフェアにおける商談の実績

国際マネーフェア	ディストリビューター
東京国際コイン・コンヴェンション	6社
ANA世界貨幣フェア(アメリカ・デンバー)	13社
北京国際郵票銭幣博覧会	10社
ワールドマネーフェア(ドイツ・ベルリン)	16社

このほか、英語版の造幣局ホームページの販売サイトにおいて当局製品に関する情報を得た顧客に通信販売を行った。

インターネット販売等適切な販売方法のあり方の検討状況

通信販売による貨幣セットのうち抽選や先着順以外の方法で申込受付を行うものについて、造幣局構内のミントショップやインターネットでの販売時期を従来より早めることにより、直接販売を充実させた。

〔参考〕

該当する貨幣セット

「人類の口承及び無形遺産に関する傑作の宣言」貨幣セット(歌舞伎) 敬老貨幣セット、くまのプーさんとなかまたち 夢と冒険の80年 2006貨幣セット、プロ野球セ・リーグ優勝記念セット、平成19年銘ミントセット、ごんぎつね貨幣セット、平成19年銘通常ブルーフセット

アンケート調査の実施状況

国民のニーズを的確に把握するため、造幣局が出展した公共イベントの来場者並びに通信販売による貨幣セット等の購入者に対して、次のとおりアンケート調査を実施した。

(イ) イベント来場者を対象としたアンケート調査

平成18年度中に造幣局が出展した国内7箇所の公共イベント会場において、来場者に、アンケート用紙を配布し、貨幣セットの出来栄等に関する調査を実施した結果、延べ1,854人から回答を得て、有益なデータ収集ができた。

(ロ) 通信販売による貨幣セット等購入者を対象としたアンケート調査

通信販売による貨幣セット等の購入者の中から無作為に抽出した1,600人に対して、平成19年1月に、貨幣セットの出来栄及びデザイン、ハロ-ダイヤルの利用状況等に関する調査を実施し、1,307人から回答を得、顧客満足度などについて有益なデータ収集ができた。

<別添「平成18年度顧客満足度に関するアンケート結果」参照>

アンケート調査結果への対応状況

平成17年度のアンケート調査の結果、日本の歴史、文化、芸術を題材にした貨幣セットの販売を希望する顧客が多かったことから、日本の名作童話をテーマにした『ごんぎつね』貨幣セット～「赤い鳥」掲載75周年記念～の販売を2月に行った。

また、古銭を題材にしたメダルを組み込んだ貨幣セットの販売を希望する顧客が多かったことから、この要望に応えるため、古銭メダル(四角穴メダル)の量産化に向けた技術調査を行った。

顧客に対する満足度

平成18年度に造幣局が出展した国内7箇所の公共イベント会場への来場者に対して実施したアンケート調査における顧客満足度は、5段階評価で4.2であった。

また、通信販売による貨幣セット等の購入者に対して実施したアンケート調査における顧客満足度は、5段階評価で4.2であった。

両アンケート調査の結果を平均した顧客満足度は、5段階評価で4.2となり、目標の4.0以上を達成した。

ロ. 記念貨幣の適正公平な販売

公平な記念貨幣購入機会の提供状況

財務省が国際連合加盟50周年記念千円銀貨幣の発行を決定(平成18年4月)したことを受け、販売要領を平成18年8月に公表(新聞発表)するとともに、新聞広告や造幣局ホームページへの掲載を通じ広く国民に案内した。なお、販売要領には、記念貨幣の抽選による販売方法、同一住所で多数の申込みがあった場合などには払込用紙の送付に当たって本人限定受取郵便制度を利用した確認を行う旨を掲記した。

その結果、販売予定数を上回る購入希望が寄せられたことから、一般顧客の中から抽選

者を招き、関係者及び第三者の立会者の下、公開の抽選会（平成18年10月）により公平な抽選を行って購入者を決定した。

（表）国際連合加盟50周年記念千円銀貨幣セットの応募状況

区 分	販売予定数 （セット数）	当選倍率 （倍）
国際連合加盟50周年記念千円銀貨幣セット	70,000	15

財務大臣が指定する数量の確実な販売状況

国際連合加盟50周年記念千円銀貨幣の販売については、販売予定数7万セットを販売した。

評価の指標

- イ．国民のニーズに的確に対応した貨幣セットの販売
 - 国民のニーズに的確に対応した貨幣セットの販売状況
 - 貨幣セットの新製品開発
 - 支払方法多様化への取組状況
 - 貨幣セットの海外での販路拡大への取組状況
 - インターネット販売等適切な販売方法のあり方の検討状況
 - アンケート調査の実施状況
 - アンケート調査結果への対応状況
 - 顧客に対する満足度
- ロ．記念貨幣の適正公平な販売
 - 公平な記念貨幣購入機会の提供状況
 - 財務大臣が指定する数量の確実な販売状況

評価等

評 定

A +

（理由・指摘事項等）

貨幣セットの販売は引き続き好調で、ブルーフ貨幣に海外造幣局製造の貨幣を組み合わせた製品やリバーシブル容器を採用した製品の開発等、新たな発想での製品開発を行っている。

国民のニーズに対応した新製品の開発、代金支払方法の多様化等による購入者の利便性の向上等により、貨幣セット等の購入者に対して行った満足度調査においても5段階評価で4の目標を上回る結果（4.2）を得た。

海外での貨幣セットの販路拡大等に取り組んでおり、今後とも定期的な購入者の開拓を期待する。

以上を総合的に勘案して、本項目の評定をA + とする。

平成18年度顧客満足度に関するアンケート結果

1. 公共イベント等への出展時における来局者に対するアンケート

(1) 貨幣セットに関するアンケートを実施した催事名及び回答者数

催 事			造幣販売所 来場者数	アンケート 回答者数	質問の番号
催 事 名	開催場所	期 間			
花のまわりみち	広島支局	4/14～20(7日間)	未調査	218	
大阪コインショー	大阪市OAPタワービル	6/23～25(3日間)	未調査	298	
造幣局!N甲府	甲府市山交百貨店	7/26～31(6日間)	2,602	328	
お金と切手の展覧会	長崎市博多大丸長崎店	8/16～22(7日間)	2,065	329	
わかやま商工まつり	和歌山ビッグホエール	10/7～8(2日間)	未調査	100	
造幣東京フェア	東京支局	10/7～9(3日間)	3,797	303	
造幣局!Nつくば	西武百貨店筑波店	2/2～7(6日間)	3,558	278	
合 計			12,022	1,854	

(2) 質問別のアンケート結果

質問 番号	質 問 内 容	良い 5	やや良い 4	どちらでもない 3	やや良くない 2	悪い 1	延べ回答者数	顧客評価 (平均値)
	各イベントの貨幣セットをどのように思われますか	765人 58%	339人 26%	202人 15%	8人 1%	4人 0%	1,318人	4.4
	販売コーナーをどのように思われますか	1,106人 60%	469人 26%	235人 13%	24人 1%	2人 0%	1,836人	4.4
	平成18年銘記念日セットをどのように思われますか	129人 59%	52人 24%	34人 16%	3人 1%	0人 0%	218人	4.4
	平成18年銘ジャパンコインセットをどのように思われますか	116人 53%	60人 28%	40人 18%	2人 1%	0人 0%	218人	4.3
	世界遺産(歌舞伎)セットをどのように思われますか	108人 37%	83人 29%	84人 29%	7人 2%	7人 2%	289人	4.0
	敬老セットをどのように思われますか	103人 35%	78人 27%	94人 32%	14人 5%	4人 1%	293人	3.9
	石原裕次郎デビュー50周年記念2006ブルーフ貨幣セットをどう思われますか	285人 46%	115人 19%	212人 34%	4人 1%	6人 1%	622人	4.1
	くまのプーさんとなかまたち夢と冒険の80年2006貨幣セットをどう思われますか	386人 53%	174人 24%	166人 23%	1人 0%	0人 0%	727人	4.3
	2006年日豪交流年ブルーフ貨幣セットをどう思われますか	203人 50%	92人 23%	110人 27%	1人 0%	1人 0%	407人	4.2
	近代日本の夜明け円の誕生造幣東京フェア2006ブルーフセットをどのように思われますか	146人 54%	83人 31%	39人 14%	1人 0%	1人 0%	270人	4.4
	平成19年銘記念日セットをどのように思われますか	136人 52%	81人 31%	42人 16%	2人 1%	2人 1%	263人	4.3
	平成19年銘ジャパンコインセットをどのように思われますか	123人 47%	81人 31%	54人 21%	1人 0%	2人 1%	261人	4.2
合 計		3,606人 54%	1,707人 25%	1,312人 20%	68人 1%	29人 0%	6,722人	4.2

2. 貨幣セット購入者に対するアンケート(回答者数:1,307人)

質 問 内 容	大変よい (便利になった) 5	ややよい (やや便利になっ た) 4	普通 (変わらない) 3	ややよくない (あまり便利でな い) 2	よくない (便利でない) 1	延べ回答者数	顧客評価 (平均値)
国際連合加盟50周年記念千円銀貨幣ブルーフ貨幣セットの全体的な満足度をお聞かせください	496人 40%	577人 46%	174人 14%	3人 0%	2人 0%	1,252人 100%	4.2
幻の金貨メモリアル平成十八年銘ブルーフ貨幣セットの全体的な満足度をお聞かせください	359人 29%	551人 45%	294人 24%	14人 1%	2人 0%	1,220人 100%	4.0
南極地域観測50周年記念5円円形貨幣真鍮入り平成19年銘貨幣セットの全体的な満足度をお聞かせください	430人 33%	577人 45%	262人 20%	16人 1%	1人 0%	1,286人 100%	4.1
くまのプーさんとなかまたち夢と冒険の80年2006貨幣セットの全体的な満足度をお聞かせください	391人 31%	513人 41%	322人 26%	30人 2%	7人 1%	1,263人 100%	4.0
ハローダイヤルの評価をお聞かせください	109人 69%	33人 21%	12人 8%	3人 2%	1人 1%	158人 100%	4.6
合 計	1,785人 35%	2,251人 44%	1,064人 21%	66人 1%	13人 0%	5,179人 100%	4.2

公共イベント等の出展時における来場者に対するアンケート調査結果[顧客満足度平均値:4.2(回答者数:1,854人)]、及び貨幣セット購入者に対するアンケート調査結果[顧客満足度平均値:4.2(回答者数:1,307人)]を単純平均すると平成18年度における顧客満足度調査の結果は4.2であった。

独立行政法人造幣局 事業年度評価の項目別評価シート（10）

大項目：2. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

中項目：（1）貨幣の製造等

小項目： 地金の保管

中期目標	造幣局は、財務大臣から委託された地金の保管業務を確実に実施するものとする。	
中期計画	政府から保管を委託されている貨幣回収準備資金に属する地金（引換貨幣及び回収貨幣を含む。）については、万全の注意を払い、より高い安全性の下で適切な管理及び保管を行い、今後とも保管地金の亡失ゼロを維持します。	
（参考） 年度計画	政府から保管を委託されている貨幣回収準備資金に属する地金（引換貨幣及び回収貨幣を含む。）については、万全の注意を払い、より高い安全性の下で適切な管理及び保管を行い、保管地金の亡失ゼロを維持します。	
業務の実績	<p style="color: blue; margin: 0;">保管地金の適切な管理及び保管の状況</p> <p style="margin: 0;">財務大臣から保管を委託された貨幣回収準備資金に属する地金（引換貨幣及び回収貨幣を含む。）については、下記事項を確実に実行し、地金保管に万全を期した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地金保管庫等における施錠・警報装置の確認及び個人認証システム等による入退室者のチェックを確実に実行した。 ・ 日々の地金の入出庫を常に帳票等で把握し、受払いごと及び月末に保管地金の在庫確認を行い、保管地金管理に万全を期した。 ・ 毎月の財務局による保管地金の確認検査に合格した。 ・ 回収貨幣等の保管のために新設した保管庫の使用を平成18年4月より開始した。 <p style="color: blue; margin: 10px 0 0 0;">保管地金の亡失の有無</p> <p style="margin: 0;">保管地金の亡失なし。</p>	
評価の指標	保管地金の適切な管理及び保管の状況 保管地金の亡失の有無	
評価等	評 定	（理由・指摘事項等） 財務省から保管を委託された貨幣回収準備資金に属する地金の保管については、引き続き万全の注意が払われ、適切に保管がなされ、保管地金の亡失はなかったことから、本項目の評定をAとする。
	A	

独立行政法人造幣局 事業年度評価の項目別評価シート（１１）

大項目： 2. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

中項目： (2) 勲章等の製造等

小項目： 勲章等及び金属工芸品の製造等

中期目標	<p>造幣局は、採算性の確保に向け効率化を図りつつ、製造に係る高度な技術の維持向上に努めるとともに、栄典制度の変更による勲章等の製造数量の増加に的確に対応し、確実に製造を行うものとする。</p> <p style="padding-left: 2em;">(注)「勲章等」とは、勲章、褒章、賜杯、記章及び極印をいう。</p> <p>また、造幣局は、金属工芸品について、採算性の確保に向け効率化を図りつつ、製造に係る高度な技術の維持向上に努めるとともに、購入者の要望に応えるため商品の多様化や海外での販売について取り組むものとする。</p>
中期計画	<p>イ．勲章の製造</p> <p>勲章は、国家が与える栄誉を表象する重要な製品であり、美麗・尊厳の諸要素を兼ね備えたものであることが要求されます。従って引き続き精巧な技術と細心の注意を払って熟練した職員の手により確実に製造します。</p> <p>また、14年8月に行われた栄典制度の改革により、新たな勲章の製造や数量の増加等が予想されますが、これらに対しても確実に対応します。</p> <p>そのため、培われてきた伝統技術の確実な維持・継承と職員の技術向上が必要不可欠であるため、OJT（職場内教育）に加え、各種の研修を実施します。</p> <p>一方で、受注数量の多い勲章の機械化が可能な部分については極力マシニングセンタ等の自動化機械を利用する等、採算性の確保に向けた製造工程の効率化を図ります。</p> <p>ロ．金属工芸品の多様化等</p> <p>金属工芸品については、幅広い国民のニーズに応えるため、製品の多様化、高品質化を推進します。具体的には高度な勲章製造技術で培われてきた技術を生かした高付加価値製品や貨幣セットと組み合わせた製品の検討等を行い、中期目標の期間中、5件以上の新製品開発に努めます。</p> <p>また、金属工芸品には多品種少量生産のものが多く、勲章の場合と同様に可能な部分については極力機械化を進める等、採算性の確保に向けた効率化を図ります。</p> <p>さらに、造幣局の優れた金属工芸品製造技術を広く海外に紹介し、海外での販売に取り組めます。</p>

<p>(参考) 年度計画</p>	<p>イ．勲章の製造</p> <p>勲章は、国家が与える栄誉を表象する重要な製品であり、美麗・尊厳の諸要素を兼ね備えたものであることが要求されることから、精巧な技術と細心の注意を払って熟練した職員の手により確実に製造します。</p> <p>そのため、培われてきた伝統技術の確実な維持・継承と職員の技術向上が必要不可欠であるため、OJT（職場内教育）に加え、外部研修機関への職員の派遣を行います。</p> <p>一方で、勲章の製造工程のうちで機械化が可能な部分については極力マシニングセンタやワイヤ放電加工機等の自動化機械を利用して省力化に努める等、採算性の確保に向けた製造工程の効率化を図ります。</p> <p>ロ．金属工芸品の多様化等</p> <p>金属工芸品については、幅広い国民のニーズに応えるため、製品の多様化、高品質化を推進します。具体的には高度な勲章製造技術で培われてきた技術を生かした高付加価値製品や貨幣セットと組み合わせた製品の検討等を行い、平成 18 年度中に 1 件以上の新製品開発を行います。従来から行ってきた、桜の通り抜けメダル以外にも各種イベント等に合わせたメダル等の販売に努めるとともに、受注活動についても積極的に展開していきます。</p> <p>また、金属工芸品には多品種少量生産のものが多く、勲章の場合と同様に可能な部分については極力マシニングセンタ等による機械化による省力化に努める等、採算性の確保に向けた効率化を図ります。</p> <p>さらに、ワールドマナーフェア等の機会を利用して、七宝製品等を展示することなどにより、造幣局の優れた金属工芸品製造技術を広く海外に紹介し、海外販売につなげる努力をします。</p>
<p>業務の実績</p>	<p>イ．勲章の製造</p> <p>勲章の確実な製造の状況</p> <p>内閣府賞勲局との間で締結した勲章製造請負契約に基づき、29,710個の製造を行い、各月の設定された納期内に確実に納品した。</p> <p>新たな勲章への確実な対応の状況</p> <p>平成15・16年度の製造を通じて新勲章の的確な製造体制の構築は完了しており、平成18年度は、この製造体制を引き続き維持し、マシニングセンタや七宝自動盛付機等の自動化機器を活用して一層の効率化を図り、29,710個（平成15・16年度は、いずれも29,253個、平成17年度は29,748個）の勲章を確実に製造した。</p> <p>（注）勲章製造実績の個数は、個数ベースを基本に、複数の構成部品からなる製品については1個として計上した。</p> <p>伝統技術の維持・継承と職員の技術向上の状況</p> <p>1．芸術大学への派遣（工芸部門総合技能研修）</p> <p>東京芸術大学工芸科（鍛金研究室）に職員1人を研修委託生として4月から1月まで派遣し、伝統的工芸技法（木目金（もくめがね）・ダマスカス技法）の習得や地域技術者交流会等に参加し専門知識の取得などにより、将来の技術指導者の養成を行った。</p> <p>（注）木目金・ダマスカス技法：異種金属（銅、真鍮、銀）（鉄、ニッケル）を溶着させ、風合いの異なった工芸品を創作する技法。</p> <p>2．外部講師による研修</p>

工芸部門総合技能研修

外部講師による有線七宝課程と鍍金課程を職員1人ずつが4月から1年間受講し、基礎的かつ総合的な技術及び知識を習得させた。

金工技能レベルアップ研修

工芸部門総合技能研修修了者(6人)を対象に、重要無形文化財保持者(人間国宝)による指導により、金工技能に関する技能のレベルアップ研修を実施した。

3. 技能向上のための技能検定受験

技能向上のため、積極的に技能検定を受験させた結果、

- ・ 貴金属装身具技能検定1級 1人合格(2人受験)
- ・ 普通旋盤技能検定1級 1人合格(1人受験)
- ・ プレス技能検定2級 1人合格(2人受験)

の実績をあげた。

また、平成17年度に技能検定1級に合格した4人が職業訓練指導員の資格を取得したので、OJTによる技術指導に役立てることとする。

4. OJTによる上級勲章製作技能の伝承

上級勲章の製作に必要な高度な技能の伝承を図るため、勲章製造に携わる職員の中から、12人(仕上係7人、七宝係5人)を選抜し、平成18年4月から平成19年3月までの12箇月間、熟練職員が指導者となってOJTにより菊花章頸飾などの上級勲章の製作を通じて技能習得訓練を実施した。

製造工程の効率化への取組状況

1. 各製造工程における効率化の取組み状況は次のとおり。

(イ) 圧写工程における効率化の取組み

(単位:個)

対象	17年度	18年度	備考
章牌等	3,894	1,755	
瑞宝小綬章、双光章、単光章の連珠	4,200	11,520	17年度は瑞宝単光章の連珠のみ
計	8,094	13,275	

(注) 勲章用地金のプレス用極印(金型)は大きさが多様であるために、従来は、その都度、極印の直径に合わせたダイセット(圧写機に上下の極印を取り付ける際の固定用台座)に交換する必要があったが、平成16年度末に導入した高速型の圧写機(630ト)で作業を行うため、極印の土台部分の直径をダイセットに合わせて均一化し、効率化を図った。

(ロ) 仕上工程における効率化の取組み

(単位:個)

区分	対象	17年度	18年度	備考
ワイヤー放電加工機	瑞宝小綬章、双光章、単光章各章身	22,014	23,091	
マシニングセンタ	旭日小綬章、双光章、単光章の各章身及び鈕章 瑞宝小綬章、双光章、単光章の各連珠及び鈕章	58,529	59,354	
自動研磨による羽布作業(試行)	旭日小綬章、双光章、単光章各章身	2,440	3,252	17年度は旭日単光章章身のみ

(注1) ワイヤー放電加工機: 金属製のワイヤー(直径0.2mm~0.3mmの

黄銅製が多い)に高電圧をかけ、被加工物との間に放電を繰り返しながら切断するNC工作機械。

(注2) マシニングセンタ：コンピュータ制御により、予めプログラムしておいた切削や穴あけ等の多種多様な加工を全自動で行う工作機械。

(注3) 羽布作業：布に研磨剤をつけて勲章の部品の表面を手作業で研磨する作業

(八) 七宝工程における効率化の取組み

(単位：個)

区分	対象	17年度	18年度
七宝自動盛付機	瑞宝小綬章、双光章、単光章の各連珠と珠、つなぎ部分と珠	20,565	21,574
七宝自動研磨機	旭日小綬章、双光章、単光章の各章身及び鈕章 瑞宝小綬章、双光章、単光章の各章身及び鈕章	24,369	28,447

(注1) 七宝自動盛付機：粉砕した七宝釉薬をシリンダーに詰め込み、コンピュータ制御により指定された位置に定量の七宝釉薬を盛り付ける機械。

(注2) 七宝自動研磨機：上下に取り付けた砥石で加工物を挟んだ状態にし、コンピュータ制御により一定圧をかけ、砥石と加工物を回転させながら表面を研磨する機械。

上記及び「金属工芸品の多様化等 製造工程の効率化への取組状況」中の取組みの結果、本局装金課の技能職員は、技能伝承を図りつつも、人員を削減した。

〔参考〕本局装金課技能職員の削減状況(期初人員)

(単位：人)

平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
97	92	93	91	90

2. 装金課生産管理システムの運用による生産管理体制の充実について

平成18年4月から装金課生産管理システムの運用開始により、これまで手書きであった作業日報や次工程への送付伝票などについて、バーコードやタッチパネルによる電子入力となり、ERPへの登録作業も自動化されるとともに、原材料や勲章部品(仕掛品)等について、ロット単位の管理が容易になった。

ロ. 金属工芸品の多様化等

金属工芸品の多様化・高品質化の推進状況

顧客ニーズに即した金属工芸品の多様化・高品質化の製品として、かねてから研究所で開発中の技術“グラデーション(見る角度によって表面の図柄の部分が動くように見えるもの)”を銀メダルに採用し、「外輪蒸気船」として販売した。

なお、本製品については、平成18年9月に申込受付を開始し、販売予定数量3,000個のところ3,115個を販売した。

金属工芸品の新製品開発

“グラデーション”技術を使用した「外輪蒸気船」を開発した。

製造工程の効率化への取組状況

- 平成17年度に引き続き、平成18年度には圧写工程において現在保有している勳章用12セット、金属工芸品用2セットの抜き型をクイック・ダイ・チェンジ（QDC）用の新しい抜き型に逐次更新した。
- 極印（金型）の形式がプレス機械の種類ごとに異なり、互換性がなく、勳章及び金属工芸品の製造にあたって、プレス機械の種類ごとに極印が必要になっていたため、計画的にプレス機械の改造を行い、平成17年度に引き続き、極印の共通化による効率化を図った。
平成18年度は共通仕様の極印を22個製作し、複数のプレス機械で使用できるようにした。
- 平成17年度に引き続き、従来手作業で行っていた、複雑な形状をした工芸品の外周切取作業に、マシニングセンタを使用して省力化・効率化を図った。
平成18年度は、高校野球優勝・準優勝メダル（56個）に加え角型章牌「燕子花（かきつばた）章牌」（4個）をマシニングセンタで成型加工を行った。

海外への製品紹介及び販売の取組状況

デンバー（アメリカ）及びベルリン（ドイツ）で開催された国際マネー・フェアにおいて、当局製品を展示・販売し、製品紹介を行うとともに、ブ・ス来訪者の製品に対する聴取り調査を行った。

また、国内外で開催される国際マネー・フェアにおける貨幣セット等の商談の際に金属工芸品の紹介も行った。

このほか、英語版の造幣局ホームページの販売サイトにおいてインターネット販売を行った。

〔参考〕

【勳章・金属工芸品の受注・販売状況】（税抜き）

区 分	年度計画		受注・販売実績		
	個数	金額（千円）	個数	金額（千円）	
18 年 度	勳章類	29,454	2,521,345	29,710	2,512,983
	銀盃類	817	21,779	1,728	37,561
	一般工芸品	46,102	962,062	62,843	1,268,827
	計	76,373	3,505,186	94,281	3,819,371
〔参考〕 17 年 度	勳章類	29,576	2,510,110	29,748	2,500,055
	銀盃類	2,608	47,550	2,236	50,085
	一般工芸品	48,461	835,588	63,424	1,239,044
	計	80,645	3,393,248	95,408	3,789,184

（注）個数については、個数ベースを基本に、複数の構成品からなる製品については1個として計上した。

評価の指標

イ．勳章の製造

勳章の確実な製造の状況

新たな勳章への確実な対応の状況

伝統技術の維持・継承と職員の技術向上の状況

製造工程の効率化への取組状況

	<p>ロ．金属工芸品の多様化等 金属工芸品の多様化・高品質化の推進状況 金属工芸品の新製品開発 製造工程の効率化への取組状況 海外への製品紹介及び販売の取組状況</p>	
<p>評価等</p>	<p>評定</p> <p>A</p>	<p>(理由・指摘事項等)</p> <p>勲章製造については、内閣府との契約に基づき、品質・芸術性の高い多く(29,710個)の製品を確実に製造・納品したこと、マシニングセンタや七宝自動盛付機等の自動化機器の導入等を活用して省力化・効率化を図っており評価できる。</p> <p>伝統技術の維持・継承と職員の技術向上のため、芸術大学への派遣、研修の実施、OJTなどを行ったことや、技能検定試験への受験を奨励し、技能伝承を図った。</p> <p>金属工芸品については、グラデーション技術を採用した『外輪蒸気船メダル』の販売など、製品の多様化、新製品の開発に努めたことや、海外への販売促進を行ったことは評価できる。</p> <p>以上を総合的に勘案して、本項目の評定をAとする。</p>

独立行政法人造幣局 事業年度評価の項目別評価シート（１２）

大項目： 2. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

中項目： (2) 勲章等の製造等

小項目： 貴金属の品位証明

中期目標	<p>貴金属の品位証明等の業務については、最近の受注動向を踏まえ、効率化を図るとともに、業務運営のあり方を検討するものとする。また、採算性確保の観点も考慮した適切な手数料を設定するものとする。</p>
中期計画	<p>貴金属の品位証明等の業務については、消費者保護や貴金属取引の安定に寄与するものですが、一方で、最近の受注動向を受けて業務運営方法を見直す等、経費削減を図るとともに採算性確保の観点も考慮しつつ、適切な手数料体系を構築します。</p> <p>また、これまで築き上げてきた信用力のある造幣局の品位証明について国民各層に理解を深めてもらえるよう広報の充実に努めます。</p>
(参考) 年度計画	<p>貴金属の品位証明等の業務については、消費者保護や貴金属取引の安定に寄与するものであることを踏まえつつ、最近の受注動向を受けて業務運営全般について、抜本的な対策を検討します。</p>
業務の実績	<p>貴金属の品位証明等の業務の運営方法の見直し及び経費削減と採算性確保に向けた取組状況</p> <p>貴金属の品位証明等の業務については、平成17年度に引き続き、プロジェクトチームにおける検討に基づき、利便性の向上のため一部の金製品の返却期間の短縮とそれに伴う新たな手数料の設定を行い、受託数量の減少に伴う改善策を実施した。</p> <p>さらに、平成19年1月に、収支改善に向けた抜本的な業務改善策を掲げた「貴金属の品位証明業務に係るアクションプログラム」(別添)を策定し、着実な実施を図っているところである。</p> <p>〔参考〕</p> <p style="padding-left: 2em;">アクションプログラムにおける抜本的な業務改善策</p> <p style="padding-left: 4em;">業務実施部局の統合</p> <p style="padding-left: 4em;">業務実施部局における人員削減の可能な限りの前倒し等</p> <p style="padding-left: 4em;">手数料体系の見直し</p> <p style="padding-left: 4em;">サービス向上策等</p> <p>なお、同プログラムを実施する中で、東京支局への業務実施部局の統合(平成19年1月)業務実施部局における人員削減(5人(12人-7人))、すべての金製品について返却期間の短縮、小売業者及び個人に対する新たなPRを行った。</p> <p>また、手数料体系の見直しについても、30%程度の手数料の引上げと大口割引制度の導入を決定し、平成19年3月に公表した(平成19年4月から実施)</p>

〔参考〕 手数料体系の見直し内容

	新手数料 (1個当たり)	〔参考〕 旧手数料	第1段階の大口割引		第2段階の大口割引	
			対象部分	新手数料の 1割引	対象部分	新手数料の 2割引
白金製品	328円	252円	30個超	295円	60個超	262円
金製品	143円	110円	30個超	129円	60個超	114円
銀製品	75円	58円	200個超	68円	400個超	60円
コンビ製品	410円	315円	30個超	369円	60個超	328円

・「金製品」(指輪、ネックレス等)の場合の手数料 例

	10個	31個	61個
新手数料	1,430円	4,419円	8,274円
旧手数料	1,100円	3,410円	6,710円

そのほか、柔軟な人員配置による効率的な作業が行えるよう、打刻作業と分析作業間の多能工化のためのOJT(職場内研修)を実施した。

貴金属の品位証明についての広報の充実への取組状況

1. イベント会場等でのポスター掲示及びパンフレット等の配布

(イ) イベント会場において、次のとおりポスター掲示及びPR紙の配布を行うなど、幅広い広報活動を展開した。

イベント名	期 間	PR紙配布枚数等
東京国際コインコンベンション	平成18年 5月 2日～5月 4日	1,000枚
第10回神戸国際宝飾展	平成18年 5月18日～5月20日	180枚
第4回大阪コインショー	平成18年 6月23日～6月25日	500枚
造幣局IN甲府	平成18年 7月26日～7月31日	1,000枚
造幣東京フェア	平成18年10月 7日～10月 9日	3,800枚
国際宝飾展	平成19年 1月24日～1月27日	160枚
造幣局IN筑波	平成19年 2月 2日～2月 7日	1,500枚

(ロ) そのほか、ホールマーク制度の認知度を向上させるため、小売店及び個人に対するPRを進めることとし、貴金属の品位証明に係る広報活動を次のとおり行った。

広報活動の内容	期 間	PR紙配布枚数等
工場見学者にパンフレットを配布	通年	13,500枚
本局登録業者へパンフレット送付	平成18年11月	120枚
記念貨幣発行記念メダルのご案内に品位証明の説明を記載し送付	平成18年11月	396,000枚
事業PR用卓上カレンダーに品位証明の説明を記入	平成18年12月	500枚
貴金属小売業者へパンフレット送付	平成19年 3月	2,600枚

(ハ) ホームページにおいて、金製品を対象とした返却期間の短縮及びそれに伴う新たな手数料の設定、品位証明業務の東京支局への集約、アクションプログラムの公開、品位証明手数料の改定予告等を適宜掲載して周知した。

【貴金属の品位証明業務の状況】(税抜き)

区 分	年度計画		受託実績	
	数量(個)	金額(千円)	数量(個)	金額(千円)
平成18年度	400,000	60,000	303,228	45,550
〔参考〕 平成17年度	617,000	82,457	454,493	68,305

評価の指標

貴金属の品位証明等の業務の運営方法の見直し及び経費削減と採算性確保に向けた取組状況
貴金属の品位証明についての広報の充実への取組状況

評価等	評定	(理由・指摘事項等)
	B	<p>経営的に不振が続いていたが、抜本的な業務改善策を掲げた「アクションプログラム」を策定し、業務実施部局の統合、人員削減、手数料体系の見直し、積極的な広報など、収支改善への努力が見られる。</p> <p>18年度に「アクションプログラム」を策定(19年1月)し、業務実施部局の統合、人員削減、手数料体系の見直し、積極的な広報など、収支改善への努力が見られるものの、アクションプログラムの目標「20年度までに当該事業を収支相償とする」を達成するためには、継続的な経営努力が望まれる。</p> <p>品位証明事業は、消費者保護や貴金属取引の安定に寄与するものであり、法人の社会的責任・公的義務ととらえることもできる。一方、合理化を押し進めても経営的な問題が残るならば、事業継続の可否についてCSR(Corporate Social Responsibility = 企業の社会的責任)的視点も入れた検討が必要となる。</p> <p>以上を総合的に勘案して、本項目の評定をBとする。</p>

貴金属の品位証明業務に係るアクションプログラム

貴金属の品位証明業務については、受託数量の大幅な減少が続いており、工場の集約化、人員の削減等により収支面の改善を図っているが、大幅な赤字が続いている。

今般、本業務を引き続き行うために、平成20年度までに本業務に係る収支が相償となるよう具体的な改善策を次のとおり定め、アクションプログラムとして実施するものである。

1. 目的

収支改善を図るため、抜本的な業務改善策を実行するとともに、適切な受益者負担の観点による手数料体系の見直しなどを行う。

2. 具体的な施策

業務実施部局の統合

平成19年1月から業務実施部局を東京支局に統合

東京支局における人員削減等

平成18年度中を含め可能な限り前倒しで人員削減を行い、平成20年度から本年度当初人員(12名)の4分の1程度の体制(課の廃止を含む。)により業務実施

手数料体系の見直し

適切な受益者負担及び採算性確保の観点等を勘案し、平成18年度中に手数料体系の見直しを行い、平成19年度から実施

サービス向上策等

- ・ 手数料体系の見直しにおいて、大口依頼に対する割引制度の導入(平成19年度)
- ・ 金について全製品の返却期間短縮(2泊3日 1泊2日)の実施及び一部の金製品の翌日返還扱いに係る特別料金制度の廃止(平成19年度)
- ・ 従来から行ってきた製造業者及び販売業者に対するPRに加えて、新たに、小売業者並びに個人に対するPRの実施(平成18年度)

(注) すでに実施した施策を含む。